



二松学舎大学
父母会報

平成5年5月10日創刊
平成20年3月31日発行
(第60号)

二松学舎大学父母会

(本部)東京都千代田区三番町6番地16
(事務局)千葉県柏市大井2590
〒277-8585 TEL 04(7191)8756

二松学舎大学柏教学課

題字は
故 観山貞廣常吉先生書



卒業を祝す

父母会長 清水 忠



卒業生諸君、
ご卒業おめでとう
ございます。
この四年間は長
かったでしょう
か。それとも短か
ったのでしょうか。

卒業生の父母の皆様、お子様のご卒業おめでとうござい
ます。仕事も殆ど決まり、ホッとご安心なさ
っていることと存じます。

社会は好景気、天災も人災も人の世の常のごとくにこの世を襲いま
したが、人の世の常のごとく過ぎて
きました。明治十年に創られた二松
学舎の百三十年の歴史の中で、私達
は四年間を受け持ったわけですが、
その四年間が私達の子供達をどう育
てていってくれたでしょうか。漢学
は学ぶ者の心を育てます。人格を育
てます。この二つはいつの世にも求

められ、いつの世にも不足がち、と思われています。大正四年に大正天皇から内帑金一万円を賜った時に、三島中洲先生は漢詩五首をよまれましたが、その中に「多く茯苓を産し世弊を医さん」という一句があるということです。茯苓とは松に生えるきのこで、漢方薬です。世をいやす茯苓として私達の子供達は世の中の役に立つべく送り出されたということになります。世の中のためになる人たれ、と育てられる者は幸せです。私達もサポートし甲斐があるというものです。本学教職員の皆様には深く感謝申し上げる次第です。

世の中のためになるといっても、具体的には職に就いて仕事をとおして世の役に立つということでしょうから、大学を巣立っていく時の進路も大切だと思います。適材適所を満たせばそれにこした事はないのですが、キャリアセンターの一層の活躍を望んでいます。ぜひ十分なご指導を頂き、後押し等をお願いいたします。多くの茯苓が世のすみずみ迄いき渡るよう、よろしくお願い致します。(漢詩は柏校舎「忠孝碑」碑文中にあり)

儘に行つて己を活かしめよ

学長 今西幹一



晴れて卒業を卒業の皆さん、ご父母の皆さん、おめでとうございます。心から祝福申し上げます。卒業生の皆さんのおおかたは、社会にそれぞれの場を得て、羽ばた

を己に適切、適合させるかという闘いなのです。負けてはいけません。私たちの時代、学を修めれば職業人として生き、結婚して一家を構え、長子は親の面倒を見、二、三子は独立を圖つて行く、それが人生の当然の覚悟でした。

卒業生に贈る 創立百三十年目の卒業を祝う

理事長 大山徳高



ご卒業おめでとうございます。本学百三十年の年に卒業される皆さんの門出に、一言お祝いの言葉を添えたいと思います。皆さんは、将来への大きな夢を抱

なもの」と譬えられますが、その上、何が起るかわからない不安と危険とが重なっています。それでも、自分を信じ、諦めることなく忍耐強く目標実現のために取り組んでいた、だと思います。厳しさを乗り越え、これまでの自分とは違う成長した自分を発見する喜びを味わっていた、だと思います。達成感を得られる人生、逆境を成長の糧にできる心大きな人間になって頂きたいと思います。

卒業生のみなさんへ

文学部長 野村邦近



卒業おめでとうございます。四年間の生活の中には皆さんの思い出があることでしょう。今年卒業する文学部のみなさんは、十の専攻に分けた新しいカリキュ

大学ノート』で読まれたことでしょうか。今年からみなさんはその卒業生の一員に加わることになるのです。どうぞその自覚を持って、これからの人生を送っていただきたいと思います。学生時代に得た友人は生涯つきあつていける大切な宝といつてもよいでしょう。わたしも仕事柄、時折卒業生のみなさんが集まる会合に呼ばれることがあります。そのたびに楽しく談笑される姿を見て、その感を強くいたします。みなさんも卒業後十年、二十年と時を重ねることに、その実感をいだけ

卒業生に贈る

国際政治経済学部長 鈴木朝生



卒業生の皆さん、御卒業おめでとうございます。我が国際政治経済学部もはや

員はそのための「切っ掛け」や「材料」を、一つでも多く学生に与える責務を担っているものと心得ておりますが、私どもは全員、全力でこの役割を果たしているものと確信しております。



なかつたものを財産として、逆境に怯むことなく、却つてそれを自分に与えられた「試練」と受け取るくらいの心構えを持って、立ち向かつて行つて頂きたいと願っています。何事にも全力で取り組み、常に自己研鑽さえ怠らなければ、切り開けない道など決してありません。以上を、私からの「贈る言葉」とします。



して、社会の驥としてはどうでしょう。無理しても学校や社会に送り出す。そして自と他を適切・適合させていく。





平成二十年三月二十五日(火)、九段会館大ホールにおいて、平成十九年度二松学舎大学学位記授与式が挙行了されました。

九段会館の入り口には開場前から着飾った卒業生達が詰め掛け、晴れやかな笑顔でお互いの卒業を祝福し合い喜びの声をかけあっていました。

午前十時、演壇右手には来賓・学校法人二松学舎役員、左手に大学の教員が着席。馬淵教課係長(司会)の開式宣言

平成19年度

卒業式



で始まりました。

一同による国歌斉唱、渡邊学務局長の学事報告に続いて学士(文学・国際政治経済学)の学位記・卒業証書(文学部四六七名・国際政治経済学部二七名)が授与されました。

また、成績最優秀者に中洲賞(両学部各学科一名)の授与、教育職員免許状が伝達されました。

その後、今西学長の告辞、大山理事長・神津松峯会長の祝辞が続ぎ、祝電披露の後、在校生代表の送辞、卒業生代表の答辞、校歌斉唱と滞り



なく進み、終始厳肅な雰囲気の内にて授与式を終了しました。

今日を境に社会人として新たな一歩を踏み出す卒業生に拍手を贈りたいと思います。



国際政治経済

四年生のゼミナールを担当された先生方から饒の言葉を戴きました

社会あるところに
法あり
工業界
風力・外・稼性
福井 栄

Never Give up
Try again
y. Kawarada
四海之内皆兄弟
TAMURA

自分信じて
一歩一歩
着実に進んで下ろ
中山政義

卒業生
木朝生
力

年輪を重ね
より大きな人間に
お互い励まして
幸せは
いつも自分の
心が決める
白石まも

社会人は努力して
飯力を楽して
田中
幸裕

道木 葵
神 井 祥
の 夢
の 夢



祝 卒業

平成19年度
卒業パーティー
IN
帝国ホテル
孔雀東の間




平成二十年三月二十五日(火)、午後二時より帝国ホテル「孔雀東の間」において、平成十九年度卒業パーティーが開催されました。文学部・国際政治経済学部卒業生と大学の教職員・法人役員が加わり、広

い会場のあちらこちらに所狭しと華やかな輪ができ、共に祝い合い、語り合い、話に花が咲き、楽しい中にも別れを惜しむ一時を過ごしました。



卒業にあたり、新しい人生への、希望に満ちた門出に胸膨らませている学生三名に、四年間学んだ学生生活を振り返り、現在の心境及び感想等を語っていただきました。

『大学生活を振り返って』



文学部国文学科
大沼 一恵

思い返してみれば、一年次は大変だった。時間割は月曜日から土曜日までびっしり講義で埋まっていたし、一限目の講義に出席するために、朝七時前に自宅を出ることもままあった。もともと、それは私が人一倍勉強熱心だったからではない。単に、後になって履修不足の苦労をしたくなかったからだ。

四年間の大学生活を改めて振り返ってみても、私は決して、学業に対して殊更意欲的な学生ではなかったと思う。定期試験の度によく愚痴を零したし、講義中に居眠りをしたことも稀ではない。しかし、こうして改めて自らの大学生活を振り返ってみて、ひとつ気付いたことがある。

それは、この四年間で履修した講義数の多さだ。

中国語、小説作法実践、映像・メディア学研究、哲学に心理学、表象文化講義、日本文学概論、中国思想講義——逐一科目を挙げればキリがないが、私は大学生活の中で、実に多種多様な知識に、ごく当たり前のように出会ってきた。だが、手を伸ばさずにはいられない知識へと触れることが出来るこの環境の、何と素晴らしいことだろう。これほど多くの学問と経験に素手で触れる機会など、大学において他にあるまい。実際に大学進学以降、それまで全くの未知の領域にあった事柄を、ごく身近な既知のものとして感じられる

ようになったことが、数多くある。英語以外の外国語として、初めて学んだ中国語、舞台鑑賞経験の一度とてなかつたのに、今ではすっかり足袋にも履き慣れた狂言の実技体験は、その最たる例である。特に卒業研究制作発表に際して狂言一曲を演じ、鑑賞経験どころか初舞台を踏むこととなった後者には格別の思い入れがある。

二月六日に行われる卒業研究制作発表会を目指して、四年次のゼミの講義をほぼ稽古に費やした一年間——慣れない古文めいた科白と、踏み出す足のどちらかまできつちりと定められた所作の連続に、始めはただ目を白黒させながら先生の真似をする。ことしか出来なかつた。こと動作においては、台本のように後々見返すことの出来るものが存在せず、舞台上での立ち位置と動きを、必死になつて台本に書き込んだ。気が付けば稽古の終わりに、つい口癖のように「無理だ」と呟く私があった。だが、今になってみれば、このときの私は「無理」という言葉を、安易に使い過ぎていたように思う。否、これは卒業制作に限つたことではない。一年次、毎日講義に追われていたあのときもよくこの言葉を口にしていた。しかし、どちらも無理なことなどでは決してなかつた。事実、一年

次に履修した講義は全て単位を取得することが出来たし、卒業制作においても、拙いながらも恙なく舞台を終えることが出来た。経験の未熟さがそう感じさせるだけで、実際には本当の不可能など、早々転がってはいないものなのかもしれない。凡庸な学生生活を送っていた私に、二松学舎大学は数々の貴重な体験を与えてくれた。在学中の四年間は、まるで未知なる知識と経験の詰められた箱を次々と開いてはその中に触れていった、そんな印象がある。好奇心を持って蓋を開けた箱の中はやはり輝いて見えたし、単位を期待して手を掛けたそこに、予期せぬ興味と関心が入っていたこともある。だが、いずれにせよ、実際に蓋を開けて確かめてみるまで、箱の中身はわからない。

社会に出れば、ますます多くの未だ封を切られていない箱が並んでいることだろう。中身のわからない箱には、やはり不安も感じるが、私は体験することの楽しさを学んでいる。新たな知識を知り、経験を重ねることに、きつと前向きになれるに違いない。



『畢二松学舎四年之業』



文学部中国文学科
細川 直吉

六十歳になって、四十年間弱働き一応社会への恩返しはできたが、平均寿命の八十歳まで生きるとすれば次は何ができるかと私は考えた。年間百回ゴルフコースに行くとか、経済学か生命科学の勉強をするとか、仕事から離れた新しい生活を考えるとかのは小学生が夏休みを迎えるような浮き浮きした気分だった。結局中国文学を勉強しようと考え、社会人学生として二松学舎に入学した。二松学舎を選んだのは授業科目から見

て、最も幅広く中国文学が学べると思えたからである。日本の各大学には様々な中国文学専門分野の先生方が居られるが、全般を教育するのは二松学舎くらいだろう。実際入学して、授業内容は新鮮で、講義は丁寧で、全く新たな知識が得られると共

に生半可であった知識が系統的に整理され、大変有益であった。図書室には入門から専門まで中国文学書籍が多数あり、容易に閲覧できた。授業の他に若い同年生と一緒に文学散歩、春夏のゼミ合宿、海外短期語学研修等に参加して、澁刺とした。

入学前に私が予測した中国文学は高等学校の漢文の延長、つまり訓点をつける古典の読解であった。入学してそれは日本漢学と呼ばれる専攻科目の範疇にあたることを知った。多分私の父や祖父、曾祖父はこの手法により漢文の勉強をしたのだろう。しかし中国文学にはそれとは別の手法もあることを私は知ることができた。当初、私は中国語が必修であることは覚悟していなかつた。考えてみれば英文学の勉強に英語が必

修なことと同様に、それは当然のことである。とはいえ六十歳で新外国語を勉強するのは少しこたえた。同年の若い女性の听说(リスニング・スピーキング)の進歩が速いのは到底及ばないが、これは生来の音楽センスの悪さと語学習得能力の年齢的な衰えのためだろう。

中国文学は楽しい新分野だろうと私は期待したが、一方で初学者には取り付く島がなく冷厳無慈悲かも知れないと案じた。私は富士山裾野の青木が原を彷徨つた挙句に野垂れ死ぬようにはなりたくなかつた。論語には「上知と下愚とは移らず」と言う言葉がある。しかし大体において、孔子以下中国士人は、日常努力を積重ねると誰でも聖人に近づくことができると言う。これは中国文学を選んで最も嬉しかったことである。

私が約四十年前に勉強した物理学と比べると最大の相違点は、中国文学は原典に戻りそこから出発することである。また中国文学で学んだ重要なことは、人間性には時代と共に変化せぬ部分と変化する部分の双方があることだ。変化せぬ部分を表現するのは難しく、むしろ変化を辿る方が分り易い。中国文学約三千年の歴史の中では、人間の感性と考え方が次第に変化するが、それぞれ

の時代に特有な人間性がある。これには私には新しい発見であった。

中国文学の中で私は特に詩に関心を持った。詩は中国文学の最重要ジャンルでもある。また詩論史に興味がある。それは「詩とは何か」を『詩経』の時代から清代まで、中国人が如何に考えたか調べることになる。詩、詩人、詩論の数量は膨大で、初学者には難しい。詩を鑑賞するとき、先生方は解説で済まらずに原詩を深く読みなさいと言われる。難しい言葉を読解して詩人の心情に迫るときは嬉しくなる。王之涣の「鶴鶴樓に登る」にあるように、千里の目を窮めるために更に一層上の階に昇りたいと思う。

お世話になりました諸先生、及び多くの同学の皆さんにお礼を申し上げます。建学の祖、三島中洲に敬意を表し絶句一首を呈します。

志學繡書及好詩 格調神韻喜深知。
年初欲究風騷句 歲晚猶嘗賢哲詞。
畢二松学舎四年之業



平成20年度二松学舎大学日程表

| 年 | 月 | 日 | 月 | 日 | 日 | 程 |
|---|-------|---|-------|----|---|--------------|
| 4 | 1 | ~ | 4 | 12 | | ガイダンス |
| 4 | 3 | | | | | 入学式 |
| 4 | 初旬 | | | | | 新入生歓迎会 |
| 4 | 14 | | | | | 春セメスター授業開始 |
| 4 | 20 | | | | | 前期授業料納入期限 |
| 4 | 30 | ~ | 5 | 2 | | 全学休講 |
| 5 | 中旬 | | | | | 定期学生大会 |
| 5 | 31 | | | | | 父母会定期総会 |
| 6 | 21 | ~ | 6 | 22 | | 学園祭(柏) |
| 6 | 28 | ~ | 6 | 29 | | 学園祭(柏) |
| 7 | 15 | | | | | 授業終了 |
| 7 | 14-16 | ~ | 19-22 | | | 補講期間(6日間) |
| 7 | 23 | ~ | 8 | 5 | | 試験期間 |
| 8 | 6 | ~ | 9 | 21 | | 夏期休業期間 |
| 8 | 12 | | | | | 追試験 |
| 9 | 1 | ~ | 9 | 15 | | 夏セッション(15日間) |
| 9 | 22 | | | | | 秋セメスター授業開始 |
| 9 | 30 | | | | | 春セメスター卒業式 |

| 年 | 月 | 日 | 月 | 日 | 日 | 程 |
|-------|----|-------|----|----|---|-------------------------------|
| 10 | 10 | | | | | 創立記念日 |
| 10 | 20 | | | | | 後期授業料納入期限 |
| 11 | 1 | ~ | 11 | 4 | | 学園祭(九段) |
| 12 | 初旬 | | | | | 防災避難訓練 |
| 12/10 | 11 | 17~20 | | | | 補講期間(6日間) |
| 12 | 22 | | | | | 年内授業終了 |
| 12 | 24 | ~ | 1 | 7 | | 冬期休業期間 |
| 1 | 8 | | | | | 授業再開 |
| 1 | 19 | | | | | 授業終了 |
| 1 | 20 | ~ | 2 | 2 | | 試験期間 |
| 2 | 5 | ~ | 2 | 6 | | 卒業論文面接試問 |
| 2 | 10 | | | | | 追試験 |
| 2 | 12 | ~ | 2 | 13 | | 修士論文面接試問 |
| 3 | 初旬 | | | | | 卒業・修了者発表 |
| 3 | 中旬 | | | | | ゼミ登録許可者発表(文学部) 進級者発表(国際政経) |
| 3 | 24 | | | | | 大学院修了式 |
| 3 | 25 | | | | | 学部卒業式 |

『四年間を振り返って』



国際政治経済学部
横島 匡

社会人としての新しい生活を前にし、四年間の大学生活を振り返ると、短い学生生活であったと思う。私の大学生活は一言で言うなら、学業と私生活の両立であった。学校では学生の本業である勉学に専念し、それ以外ではアルバイトをしたり遊んだり、大学生らしい生活を送っていた。しかし、私は学業も遊びも全力で取り組んだ。それ故に充実した四年間になり、短く感じられたのかも知れない。また、大学では単に学問を身につけるだけでなく、四年間で一人の人間として成長するために、多くの教養も身につけたいと思っていた。

大学入学後、私は高校時代から法律関係に興味があったため、法・行政専攻を選んだ。実際に講義を受けると、自分が思っていた以上に講義内容が難しく、講義について行けるのが不安になった。大学の講義を受けるには自分の知識が不足していたのである。私は講義内容について行けるよう、必死に勉強をした。初めのうちは講義をよく聴き、復習に力を入れた。わからない箇所などは辞書やパソコンを使って調べ、それでもわからないことについては授業担当の先生に質問し、疑問点を解決していった。それでもレポートやテスト勉強などではかなり苦労したが、次第に力がつき、楽しく学べるようになった。

二年次になると講義の専門性も増し、内容も一層濃くなった。私は法律関係を学び、将来の実生活の中で活かしたいと考えていた。その一心で講義を少しでも自分のものにしようと努力した。もちろん、授業中は忙しく復習などにも追われたが、今思えば学生のうちしか出来ない良い経験が出来たと思う。

三年次になると校舎が都内へと移り、通学時間も約一時間半となり不安に感じていた。以前はあまり都内まで出向くことは少なかったが、今までは違う新しい風に触れることで自分自身の視野も広がり、有意義な学生生活を送ることが出来た。また、三年次からはゼミも始まり、私は情報関係のゼミを選択し、情報処理などを学んだ。元々、私はあまりパソコンが得意ではなかったが、卒業後のことも考え情報処理能力を身につけたいという思いがあった。授業内容は先生の講義を聴くというよりも、計算問題やパソコンを使っている演習が多かった。また、グループ毎にテーマを決め作品制作をし、発表もすべてパワーポイントを使って行った。私はこのゼミで実践的な経験を積んだことで、自身の能力を高めることが出来た。今後はこの経験を活かして社会で活躍したいと考えている。



創立一三〇周年記念「狂言研究会自演会」後援

平成二十年一月十三日(日)、国立能楽堂で開催された「狂言研究会自演会」において後援に係る助成をした。

学生顕彰報告

平成十九年十月二十日に開催された「第四十一回全国学生剣道優勝大会」で、男子展開競技の部と新人団体法形競技の部で優勝した。

課外活動団体助成報告

劇団こんにちはシアター
平成十九年十月十三日、十四日、アトススペース・プロットで開催した秋公演への学外発表会会場借用助成費を助成。

吹奏楽団

平成十九年十二月二十三日(日)、中洲記念講堂で開催された「二松学舎大学吹奏楽団 第十四回定期演奏会」への学外発表会ポスター印刷助成費を助成。

書道部

平成二十年一月四、六日、日中友好会館1F美術館で開催された「二松学舎大学書道部 書作展」への学外発表会会場借用費を助成。

茶道部

平成二十年三月二日、靖国神社「行雲亭」で開催された、「二松学舎大学茶道部 卒業記念茶会 友松会御茶席」への学外発表会会場借用助成費を助成。

コルエコーズ

平成二十年三月八日、アミューゼ柏で開催された「第四十一回定期演奏会」への学外発表会会場借用助成費を助成。

『父母会ホームページ』がリニューアルされます。



《田端ゼミナール》

田端ゼミでは、日本経済を色々な視点で研究をしています。毎年、そのゼミの代により内容が変わり、現三年生は、パソコン用ソフト、TSPやEviewsを使い、今後の日本経済の動きを予測するのを目標にし、取り組んでいます。田端ゼミでは、一人ひとりの意見をとても大切にしてください。なな、時には意見の食い違いによる言葉のバトルも起きますが、先生としては、それぐらいが良いそうです。

《源川ゼミナール》

人生の一番大事な時にこのゼミで学べることは大きな財産です。人として大事なマナーと話し方や行動力を学びます。いつも言われることが、今の学生には勇気が無い為に、「一歩の足が出ない、好奇心が無い、知識が無い、眼力が弱い、行動が遅い、パフォーマンスが乏しい」等です。耳に痛い言葉ですが、徐々にケースバイケースで優しく指導して下さいますので、徐々に力が着いてきます。大学で勉強をするにも、社

ゼミ探訪

四年生の授業には三年生も一緒に参加します。四年生が三年生に教えるという事で、この時は先生が教壇に立ち教えるという事はしません。去年一年を通して、「企業価値評価論」と言う本を使い、三年生がそれぞれ章ごとに分け、それを発表し、四年生がその発表に対して補足をしていく方法で行ってました。夏休みには静岡県に勉強中心の合宿に行きました。勉強は大変でしたが、夕食にはバーベキューをやりました。下にある写真がその時にとったものです。海に遊びに行くことも

セメからは決めた論文を読んで、論文の纏め方の実践を行います。合宿は山梨の市川大門で紙漉きや碑林公園で原拓採取をしたり、益子では轆轤体験をし、花器・茶碗・カップ等の作陶を創縁祭に書作品と一緒に展示致しました。宿では夜遅くまで先生の講義や各自のテーマ発表があったり、書作品の制作も行いました。源川先生は、海外(中国・韓国・台湾・ニュージーランド・スイス)で芸術活動をしておられ、(特に)中国に随行し、名碑名蹟に接して勉強してきたゼミ員も何人もおります。先生は書だけでなく、絵・篆刻・



春の日差しがあたたかく感じられる季節になりました。大学キャンパスでは新たに入学・進級した学生さん達がそれぞれに少しずつ大人の顔をもつようになっていきます。では、ここが大人になるとはどのようなことなのでしょう。考え方のひとつとして、「一人でいられる能力」をもつことが心理的に成熟した大人の目安になるといえる立場があります。それは、一人ぼっちに耐えるという意味合いではなく、他人との関係の中にありながら、自分という独立した個として一人であり続ける能力です。大学生活では、自分で履修計画を立て、自分の責任で一日の行動を決める自由が大きくなる分、いつでも仲の良い友達と一緒に行動できるとは限らなくなります。そこで一人でいられる能力が問われてきます。たとえば、携帯メールに半日友達から連絡が入らなくても不安にならずにいられるか、スケジュール帳に友達と会う約束が入っていても自分の自由な時間を楽しめるか、などの場面です。

学生相談室
だより60
カウンセラー 松平 友見

もちろん、人と一緒にいるのが好きで、それを楽しめるのは健康なことです。しかし、いつでも誰かと一緒にいないと不安で取り残されたような、見捨てられたような気持ちになるとしたら、自分一人の時間を享受することは難しくなります。一人でいられる能力は乳幼児期には始まり、他人と一緒にいながら、しかも自分自身になりきる体験を重ねて獲得されてきます。カウンセリングでもそれを目標とすることがあります。人のこの成長は、安心できる人間関係の中で自分自身になりきれた時に初めてそのささやかな一歩が生じるものだからです。学生相談では、来談した学生さんと一緒に試行錯誤しつつ、他人との関わりの中にあがりながら、より自分らしく自由にいられるあり方を探すお手伝いもしています。ご本人だけでなく、ご家族からの相談もお受けします。どうぞお気軽にご利用ください。

新年度スタート。新入生の皆さん入学おめでとうございます。二松学舎大学生になったことに誇りを持って下さい。そして、履修した科目を全力で受け、四年間で「精神の成長と生きる力」を身につけて下さい。さて、新四年生の就職活動は、三年生時の十二月には本格的にスタートいたしました。二月には、中小企業の中には内定を出す会社もあり、大手企業が一斉に内定を出す四月下旬が一つのピークとなります。しかし、それで企業の採用活動が終了する訳ではありません。学生を毎年採用している企業の大多数(約七、八千社)はその後も採用を継続しているのです。たとえ五月頃までに内定しなくても諦める必要はありません。常にキャリアセンターと連絡を取り相談して内定を勝ち取っていただきたいものです。応援しています。三年生については、各自の進路実現に向け準備の一年です。キャリアセンターが実施する各種講座(就職特別講座・就職模擬試験・

キャリアセンター
だより10

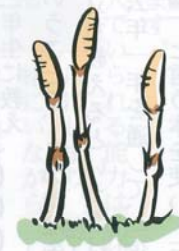
面接対策などに積極的に参加し、来るべき就職活動に備えて下さい。三年生に対する企業の採用数は、四年生よりも減少することが予想されます。つまり三年生の就職活動は厳しくなるのです。この一年の過ごし方が大切なのです。教員を目指している三年生も、この一年は実力をつける時期なのです。以前よりも教員採用数が増加したとは言え、それは大都市圏だけです。地方の採用数は逆に減少しております。教員になるために、最低限「教員採用試験合格講座」を受講することが必要です。公務員についても同様です。独学では合格は覚束ないのが現実です。行政職志望者もとより、警察官志望者も、しっかりとした受験対策が大切なのです。教員・公務員ともに早くから受験勉強を始めなければなりません。大学の授業と平行ですのでかなりの学生が諦めてしまおうのが現実です。しかし最後まで頑張った学生は、希望が叶うのです。

地区別父母懇談会日程

| 年度 | 平成20年度 | |
|-------|------------|----------|
| 開催予定県 | 福岡県(福岡市) | 6月21日(土) |
| | 新潟県(新潟市) | 6月21日(土) |
| | 東京都(九段校舎) | 7月5日(土) |
| | 千葉県(柏校舎) | 7月12日(土) |
| | 鹿児島県(鹿児島市) | 7月19日(土) |
| | 青森県(青森市) | 7月19日(土) |
| | 秋田県(秋田市) | 7月20日(日) |
| | 栃木県(宇都宮市) | 7月26日(土) |
| 合計 | 8会場 | |

父母会事業計画の一環として、毎年開催されている地区別父母懇談会の本年度の日程と開催県が別表のよう決定しましたのでお知らせいたします。実施日順から福岡県・新潟県・東京都・千葉県・鹿児島県・青森県・秋田県・栃木県の八会場を予定しております。詳細については、決定しだいお知らせいたします。

大学への質問及びご意見・ご要望などを大学関係者と直接お話しいただける絶好の機会です。この機会を是非利用していただきたいと思ます。フリー参加形式としております。



が、開催県在住の会員には改めて出欠確認のため開催案内をお送りいたします。開催県以外のご出席希望の方は父母会事務局に御連絡下さい。(電話 〇四一七二九二一八七五六)

定期総会

平成二十年年度

父母会定期総会開催について

左記の日程で、平成二十年年度二松学会大学父母会定期総会を開催いたします。

当日は、講演会を予定しております。

日時・平成二十年五月三十一日(土) 場所・九段校舎

内容・平成十九年度事業報告並びに

決算

・平成二十年事業計画並びに

予算

・平成二十年役員選出

定期総会の案内及び総会資料は、五月初めにお手元にお届けいたします。



編集後記

父母会報六十号をお届けします。卒業生の父母の皆様、お子様のご卒業おめでとうございます。今年も帝国ホテルで盛大なパーティーを行いました。

さて、社会は景気よく目をむく程の災難もなく、子供を送り出す世の中としては、まずまずといったところでしょうか。世の中に、人は仕事をとおしてかわっていきます。ぜひ満足のいく仕事を手に入れてほしいと願っています。キャリアセンタの効果ある指導方法の研究を願っています。三年になると青田が刈られるのだそうで、ポーンと出来るのは一、二年時のみ。四年にもなれば、就活と卒論と卒業単位の計算で、青くなったり赤くなったり、私の息子はしていました。秘かな準備が大切だと思います。何せ国家公務員採用受付は四月一日ですから。別に、各省の外郭団体が全部で何百あるか誰も知らないということをご存知ですか。どう採用しているかパソコンで調べてみるのも、秘かなる準備の一つでしょう。親子で就活に立ち向かってみて下さい。

では、全国の父母会の皆様のご健康と安心・安全な毎日を送られんことを祈ります。